

「老年薬学と在宅医療」

老年薬学は、超高齢社会に突入する日本において、薬剤師がチーム医療の中で役立つように新規に開設された科目です。この講義では、現場で実務に携わる医師、歯科医師、薬剤師(病院・薬局)の方を講師に迎え、今現場で何が起きているのか、何が必要なのかをあつく語っていただきます。これからの地域で活躍する薬剤師が、高齢者に特化した病態や薬物治療について学び、在宅医療の現状などを薬剤師の活動から知ることで、高齢者に薬剤師としてどのように関わっていくのかを考えることができます。これからの薬剤師に必要なモチベーションだけでなく、他の医療従事者との具体的な関わり方が講義を通じて手に入ります。

【開講日時】 水曜日 11:00～12:15 (75 分間)

※講義内容については変更がある場合もあります。

| 月/日 | 担当 | タイトル | 内容 |
|------------|----------------------|----------------------------|--|
| 9/12 水 | 福島 | 老年薬学とは | 老年薬学の必要性を理解する。薬局における介護保険点数と医療保険点数の実際を理解する。薬局における麻薬の取り扱いを理解する。 |
| 9/19 水 | 岸本 | ヒトの老化の特徴 | 加齢に伴う個体差を理解する。五感(視・聴・嗅・触・味)+痛覚の変化を理解する。内臓機能の変化を理解する。骨格・筋力の変化を理解する。ADLの低下を理解する。体内水分量・体脂肪の変化を理解する。 |
| 9/26 水 | 港区推進委員 | 認知症ケアー地域での見守りー 認知症サポーター | 認知症とはどんな疾患か理解する。認知症における薬物療法を理解する。認知症における服薬上の問題点を理解する。 |
| 10/3 水 | 福島 | 高齢者特有の疾病と生理機能変化 | 薬効に影響を与える加齢による生理機能の変化を理解する。 |
| 10/10 水 | 大谷 | 加齢に伴う薬物動態の変化 | 高齢者に注意が必要な薬物動態の変化、特に腎機能について理解する。 |
| 10/17 水 | 大木一正 (クリーン薬局) | 在宅医療の取組 | 薬局での在宅医療の現状と問題点を理解できる。 |
| 10/24 水 | 川添哲嗣 (くろしお薬局) | 患者から薬をみる | 高齢者の体調をみて、患者の使用薬剤の副作用などを検討できる。 |
| 11/7 水 | 畠中 岳 (薬局すばる) | 患者から薬をみる | 高齢者の体調をみて、患者の使用薬剤の副作用などを検討できる。 |
| 11/14 水 | 古田勝経 (国立長寿医療センター) | 褥瘡の病態と薬剤選択について | 臨床における褥瘡治療と薬剤師による期間の短縮により患者負担の軽減や、医療費の抑制を考える。薬剤師が唯一薬物療法を実践でき、チーム医療も体験できる貴重な分野であることを理解する。 |

| | | | |
|------------|--------------------------|----------------|--|
| 11/21 水 | 五島朋幸 (ふれあい歯科ごとう) | 燕下障害に伴う口腔上の問題点 | 在宅ケアにおける摂食・嚥下障害の実態とその基礎知識を知る。地域のネットワーク、さらには今後の課題について論議する。 |
| 11/28 水 | 沼田久美子 (東芝プラントシステム KK) | 在宅医療の取組 | 病院での在宅医療の現状と問題点を理解できる。 |
| 12/5 水 | 古田勝経 (国立長寿医療センター) | 褥瘡と褥瘡治療 | 軟膏を使用する際に病態に合致した軟膏基剤が湿潤環境の形成に重要な役割を果たすことを理解する。軟膏基剤の特性を十分理解し、薬効成分と相まって治癒促進に働くことを理解する。 |